



Title	GLOCOLブックレット08 資料 プログラム
Author(s)	
Citation	GLOCOLブックレット. 2012, 8, p. 125-129
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48393
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

資料

プログラム

地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ トランスナショナルな子どもたちの 教育を考える

日時：2011年1月29日(土)9:30～17:30（情報交換会 18:30～21:00）

場所：大阪大学豊中キャンパス 大学教育実践センター教育研究棟I（2階）

スチューデント・コモンズ セミナー室2・マッチングセミナー室

主催：大阪大学グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）

地域研究コンソーシアム、京都大学地域研究統合情報センター

共催：大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻

趣旨

現在の日本には、国境を越えた移動を経験している子どもたちや、国際結婚をした親を持つ子どもたちが多数暮らしています。このような子どもたちをここでは「トランスナショナルな子どもたち^{*}」と呼ぶこととします。2009年には少なくとも父母の一方が外国籍である子どもの出生数は3万人を超え、出生総数の約3%を占めました。国公私立の小・中・高・中等教育・特別支援学校には約8万人の外国人児童生徒と約1万人の帰国児童生徒が在籍し、公立小・中・高・中等教育・特別支援学校には3万人を超える日本語指導が必要な児童生徒が在籍しています。

国や地方自治体によるこれらの子どもたちへの支援には人材、予算、支援方法などさまざまな課題があり、外国人学校でも高等学校卒業資格や運営などに関する課題があります。子どもたちも言語や学力、アイデンティティなどの課題を抱えています。

学校や行政や日本語教室などがトランスナショナルな子どもたちの課題解決のためにさまざまな取り組みを行っていますが、地域の人々を巻き込んで行動していくこともこのような課題を解決するための大きな力になります。また子どもたちの経験や課題は多様であり、その教育は多角的な視点からとらえる必要があります。そのためには実践と研究をつなぎ、多様な考えを出し合うことが必要です。

そこで本ワークショップでは就学前・初等・中等教育に携わる実践者・研究者と当事者が集まり、すでに地域で実践されているさまざまな事例から地域の人々がどのようなことができるのかについて考えます。地域でできることとできないことを明確にし、どのようなネットワークを築き、どこと協働して行うのがよいか、どこに向けた提言ができるのかを明確化することを目指します。

目的

1. 実践者・当事者・研究者が対話する。多様な経験を持つ参加者が年齢や立場にとらわれず、自由に意見や情報を交換する。
2. 実践を通して得た知識や経験を共有し、お互いに実践から学び合う。
3. 子どもたちの教育に関する課題を改善するために、子どもたちを支える地域づくりに向けた具体的な提言を行うことを目指す。

本ワークショップではグループワークを中心にを行います。トランスナショナルな子どもたちの教育に関わる実践的活動を行っている5名の方々に実践や課題をお話しいただいた後、課題解決のための対策や行動案を検討します。

^{*}「トランスナショナルな子どもたち」の定義

「外国にルーツをもつ子ども」、「外国につながるのある子ども」といったときに、そこから漏れてしまう子どもの存在が見受けられます。本ワークショップでは、「トランスナショナル」という国の枠を超えて日本の各地域に暮らす子どもの教育について考えます。物理的にも心理的にも一つの国に収斂されることのない存在としての子どもの教育を考えることは、日本で生活するすべての子どもの教育を考える上でも有用な視点を提供するものです。

日程・内容

9:45-11:35

【ワーク1-1】(グループ別共有)

グループワーク／取り組み事例と課題の共有

グループ1:グループワーク お互いの経験を聴こう・話そうーミニ座談会ー

参加者全員で来日してからの経験、特に教育に関する経験を語り合う座談会を開きます。ここでは、学校のこと、勉強のこと、語学のこと、友達のこと、家族のこと、進学や将来について用意されたトピックについて自由に話します。話の中に出てきた内容から、〇〇(たとえば学校、地域など)がこうなればいいなといった提言が出てくることを目指します。

グループ2:取り組み事例と課題の共有

「トランスナショナルな子どもたち」の教育に関わる実践的活動は日本各地で取り組まれています。多角的な視点からとらえるためにも、他地域での取り組み事例を知ることは重要です。5名の方々の話から各地域での実践的活動を知り、課題を共有します。

時間	ワークの内容と活動
9:45-10:05	①「長野県B市の子ども・若者の教育の現状と課題」 能勢桂介(X地域多文化共生ネットワーク副理事長／立命館大学先端総合学術研究科博士課程)
10:05-10:25	②「国際結婚の子どもたちへの支援ー農村地域の取り組み」 藤田美佳(神奈川大学人間科学部非常勤講師)
10:25-10:45	③「東海地域で取り組んだことと取り組んでいること」 小島祥美(愛知淑徳大学文学部准教授)
10:45-11:05	④「新宿区における外国にルーツのある子どもへの支援」 小林普子(NPO法人「みんなのおうち」外国籍家族共生支援担当理事)
11:05-11:25	⑤「学外との協働・地域への発信ーAASO映像プロジェクトー」 野入直美(琉球大学法文学部准教授)
11:25-11:35	質疑応答

11:40-12:00

【ワーク1-2】(全体共有)

グループワークからの共有

【ワーク1-1】のグループ1で話し合った内容を全体で共有します。

13:00-15:40

【ワーク2-1】(グループ別ワーク)

課題の解決策のアイデアを考える

以下に示した各グループの課題について、それぞれの課題遂行のためのアイデアを出し、どの

機関や団体などと協働し、実行することができるかについて考えます。

- Aグループ：外国にルーツをもつ子どもをサポートするには？
- Bグループ：行政(教育委員会)と協働するには？
- Cグループ：子どもの自己発見をサポートするには？
- Dグループ：保護者と連携するには？
- Eグループ：トランスナショナルな子どもたちが地域へ発信するには？

時間	ワークの内容と活動
13:00-13:05 5分	1. グループワークの趣旨と方法 ファシリテーターがグループワークの趣旨と流れを説明します。
	2. グループワーク
13:05-13:20 15分	(1) 自己紹介 カードを使って簡単な自己紹介をします。「名前」「トランスナショナルな教育と関わった場所」「好きな国・地域(その理由)」をそれぞれカードに書き、それをもとに各自1分程度で紹介(発表)します。まずは参加者のことを楽しみながら知りましょう。 *用意するメモ 名前 トランスナショナルな教育と関わった場所 好きな国・地域(その理由) (活動の場所、研究のフィールド、通ったことのある学校、日本に来たときの地域など)
13:20-14:30 70分	(2) 「具体案を出し合おう」 各グループで話し合うテーマが置かれています。そのテーマを遂行するためには何が必要でしょうか？アイデアを出し合いましょう。 ①スレインストーミング(10分)：各参加者が、テーマを遂行するために必要なことを書き出します。思いつくものをできるだけたくさんカードに書きます。 ②共有(50分)：スレインストーミングで出した事柄を共有します。自分の書いたカードを説明しながら貼っていきます。同じような内容はグルーピングします。(同じ内容が複数あるときは、その中から代表するカードを選ぶか、新たに書き直します。) ③出てきたアイデアを短期、中期、長期で実現可能なものに分けていきます。「地域で今すぐ取り組めること」「時間をかけたら地域でできること」「長期を要すること」をみんなで考えながら分け、貼っていきます。(10分) *用意するメモ(方眼紙模造紙3枚×5グループ= 15枚) 短期 中期 長期
14:30-15:10 40分	(3) 「どこと協働することができるか考えよう」 ①出てきたアイデアを遂行する際に、どのような機関や団体と協働できるかを考えます。模造紙の右上に、思いつく機関・団体カテゴリーをできるだけたくさん挙げてみましょう。(20分) ②それぞれのアイデアについて協働できる機関や団体を考え、それぞれのアイデアを協働できる機関に○をつけていきます。(20分)
15:10-15:40 30分	(4) 「文章化してみよう」 これまでのワークで話し合った内容を箇条書きにします。また、全体共有の際の発表者及びスックレットに掲載する報告の執筆者を決めておきます。

16:00-17:20

【ワーク2-2】(全体ワーク)

グループ別ワークの共有と振り返り

【ワーク2-1】で話し合った内容を全体で共有し、グループワークを振り返ります。

時間	ワークの内容と活動
16:00-16:40 40分	(1) 各班からの共有 それぞれのグループでどのようなことが話し合われたか、最初の課題を解決するためのアイデアやその方法を共有します(各班5～7分)。
16:40-16:55 15分	(2) 5名の課題提供者からのコメント 一言ずつコメント(2～3分程度ずつ)をいただきます。
16:55-17:20 25分	(3) 参加者感想 各自カードに名前と感想を書きます。各班の感想をファシリテーターが読み上げます。

18:30-21:00

【情報交換会】

参加者同士の今後のネットワーク形成のために、各参加者の「トランスナショナルな子どもたち」の教育との関わりを共有し、「活動の中でどのようなやりがいを感じているか」についての意見交換と議論を行います。

時間	ワークの内容と活動
18:30-18:40	(1) 趣旨説明
18:40-20:00	(2) 各参加者が「トランスナショナルな子どもたちの教育」とどのように関わっているかを共有します。
20:00-21:00	(3) 「活動の中でどのようなやりがいを感じているか」についての意見交換・議論。

※ワークショップ終了後の活動予定

1. ワークショップ参加者の継続的交流のためにメーリングリストを活用する。
2. ワークショップの内容や成果をまとめたGLOCOLブックレットを活用する。
3. 本ワークショップにつながる活動を行っていく。